



血液がん 2021年7月版

# Oncologist Fact Report

血液がん診療医師の情報収集実態レポート  
～ 2021年新薬の認知・処方実態や  
処方に至るまでのカスタマージャーニー～

株式会社メディカルトリビューン

Hematologic malignancy '21

# 目次

	ページ
1 血液がんに関するレポート 提供背景	<a href="#">4</a>
2 調査概要	<a href="#">6</a>
● 回答者属性	<a href="#">9</a>
3 エグゼクティブサマリー	<a href="#">23</a>
4 調査結果詳細	
● 第一部：血液がんの治療実態	
• 4-1：白血病関連	<a href="#">27</a>
• 4-2：悪性リンパ腫関連	<a href="#">66</a>
• 4-3：多発性骨髄腫関連	<a href="#">90</a>
● 第二部：血液がんを診察する医師の情報収集実態	
• 4-4：コロナ禍における情報収集実態	<a href="#">115</a>
• 4-5：製薬会社のMR／MSL評価	<a href="#">146</a>
• 4-6：処方に至るまでのカスタマージャーニー	<a href="#">161</a>
• 4-7：2021年発売／承認新薬処方者の特徴	<a href="#">209</a>
• 4-8：キャズム理論を参考とした医師のグループ分け	<a href="#">231</a>

# 調査概要

今回（2021年7月版）

前回（2020年12月版）

調査  
対象者条件

1. 診療科が血液内科、もしくは腫瘍内科
2. 病床数100床以上の医療機関に勤務
3. 直近1年以内に血液がんの患者数が1人以上

1. 診療科が血液内科、もしくは腫瘍内科
2. 病床数20床以上の医療機関に勤務
3. 直近3年以内に血液がんの患者数が1人以上

標本抽出

Medical Tribune WEB医師会員 + 新聞版会員

Medical Tribune WEB医師会員 + 新聞版会員

調査手法

WEBアンケート調査

WEBアンケート調査

サンプル数

223ss

211ss

調査時期

2021年6月中旬～下旬

2020年11月末～12月上旬

分類	疾患名	略称
白血病	急性骨髄性白血病	AML
	急性リンパ芽球性白血病	ALL
	慢性骨髄性白血病	CML
	慢性リンパ性白血病	CLL
リンパ腫	濾胞性リンパ腫	FL
	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	DLBCL
	末梢性T細胞リンパ腫	PTCL
	成人T細胞白血病・リンパ腫	ATL
	皮膚T細胞性リンパ腫	CTCL
骨髄腫	多発性骨髄腫	MM

\* 一般社団法人日本血液学会 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018年版補訂版をベースに一部加筆

2016年以降に発売された血液がんの薬剤を対象とし、過去の処方経験や処方に至るまでの経路を聴取した。

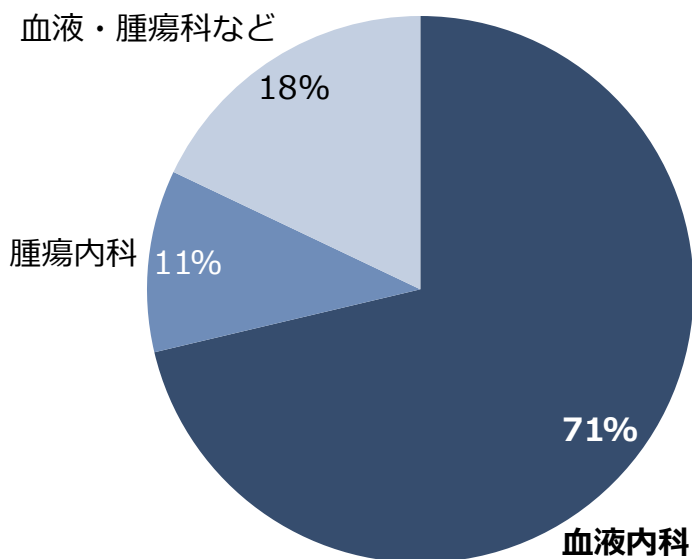
	適応疾患	一般名	商品名	企業名	大分類	中分類	発売年月
1	AML	ギルテリチニブ	ゾスパタ	アステラス製薬	チロシンキナーゼ阻害薬	FLT3阻害薬	2018年12月
2	AML	キザルチニブ	ヴァンフリタ	第一三共	チロシンキナーゼ阻害薬	FLT3阻害薬	2019年10月
3	AML ※適応追加	ベネトクラクス	ベネクレクスタ	アッヴィ	抗悪性腫瘍薬	BCL-2阻害薬	2021年3月
4	ALL	ブリナツモマブ	ビーリンサイト	アステラス製薬 /アムジェン	抗悪性腫瘍薬	抗CD19/CD3抗体	2018年11月
5	ALL	チサゲンレクルユーセル	キムリア	ノバルティス ファーマ	抗悪性腫瘍薬	CAR-T療法	2019年5月
6	ALL	イノツズマブ オゾガマイシン	ベスポンサ	ファイザー	DNA合成阻害薬	抗体薬物複合体	2018年4月
7	CLL	アカラブルチニブ	カルケンス	アストラゼネカ	チロシンキナーゼ阻害薬	BTK阻害薬	2021年4月
8	CML ※適応追加	ボスチニブ	ボシュリフ	ファイザー	チロシンキナーゼ阻害薬	SRC/ABL阻害薬	2020年6月
9	DLBCL	チサゲンレクルユーセル	キムリア	ノバルティスファーマ	抗悪性腫瘍薬	CAR-T療法	2019年5月
10	DLBCL/FL	リソカブタゲン マラルユーセル	ブレヤンジ	セルジーン (当時)	抗悪性腫瘍薬	CAR-T療法	2021年5月
11	DLBCL	ポラツズマブ ベドチン	ポライビー	中外製薬	抗悪性腫瘍薬	微小管阻害薬結合 抗CD79bモノクローナル抗体	2021年5月
12	MM	イサツキシマブ	サークリサ	サノフィ	抗悪性腫瘍薬	抗CD38モノクローナル抗体	2020年8月
13	MM	ダラツムマブ/ ボルヒアルロニダーゼ アルファ	ダラキューロ	ヤンセンファーマ	抗悪性腫瘍薬	ヒト型 抗CD38モノクローナル抗体	2021年5月
14	MM	カルフィルゾミブ	カイプロリス	小野薬品工業	抗悪性腫瘍薬	プロテアソーム阻害薬	2016年8月

### 全体

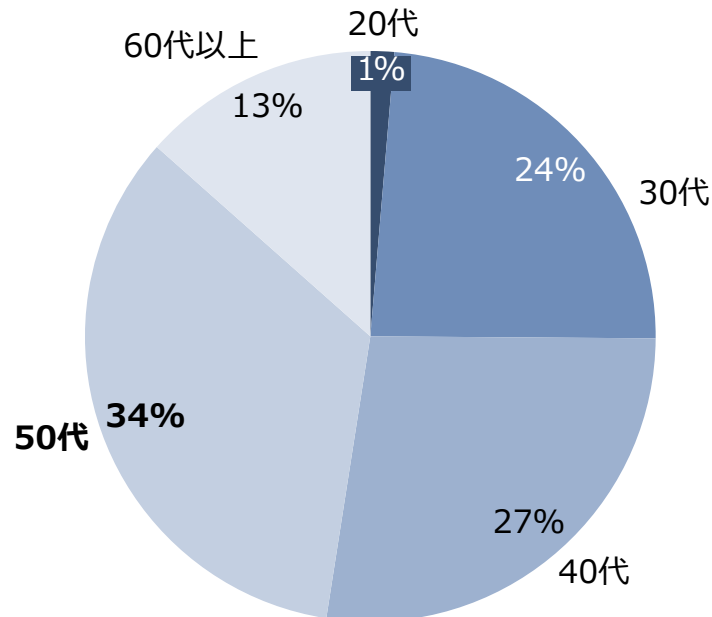
診療科は、血液内科が約7割を占め、腫瘍内科は約1割であった。  
 年齢は50代が最も多く、次いで40代、30代の順であった。  
 医師自身が考える血液がん領域での専門は、白血病と悪性リンパ腫がそれぞれ約4割で、  
 多発性骨髄腫は約2割であった。

(n=223)

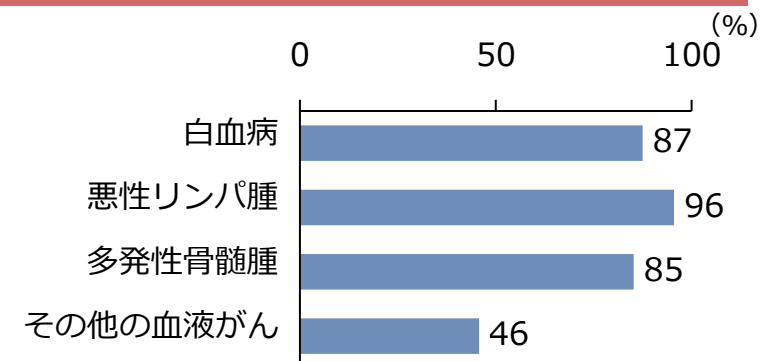
#### 診療科



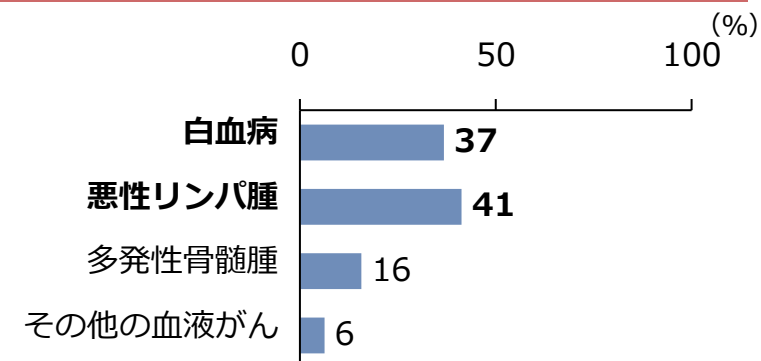
#### 年齢



#### 血液がんでの専門 (MA)



#### 血液がんでの専門 (SA)



SQ1.先生の主たる診療科をお知らせください。(SA)

F3.先生のご年齢(年代)を教えてください。(SA)

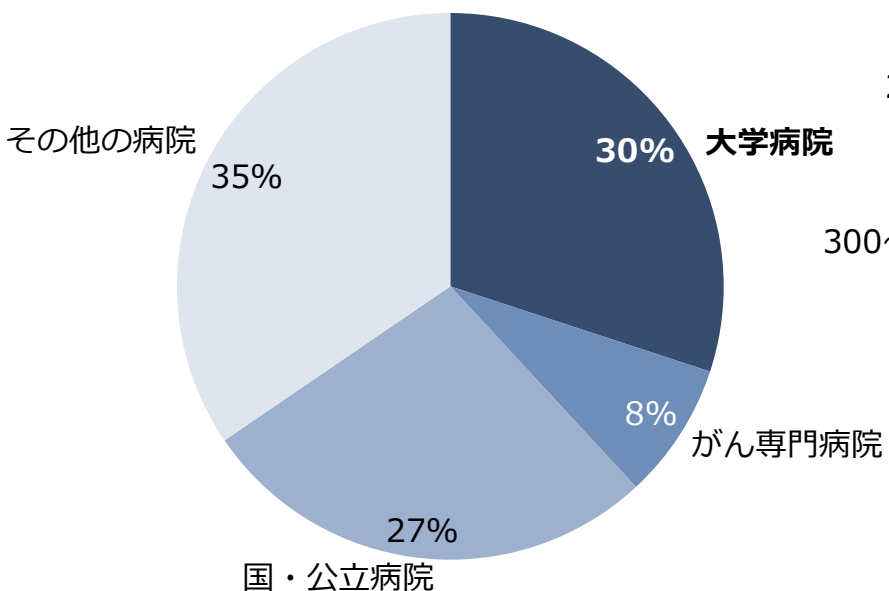
SQ3.造血器腫瘍(血液がん、以降は血液がんと表記)における、先生のご専門領域について教えてください。(MASA)

### 全体

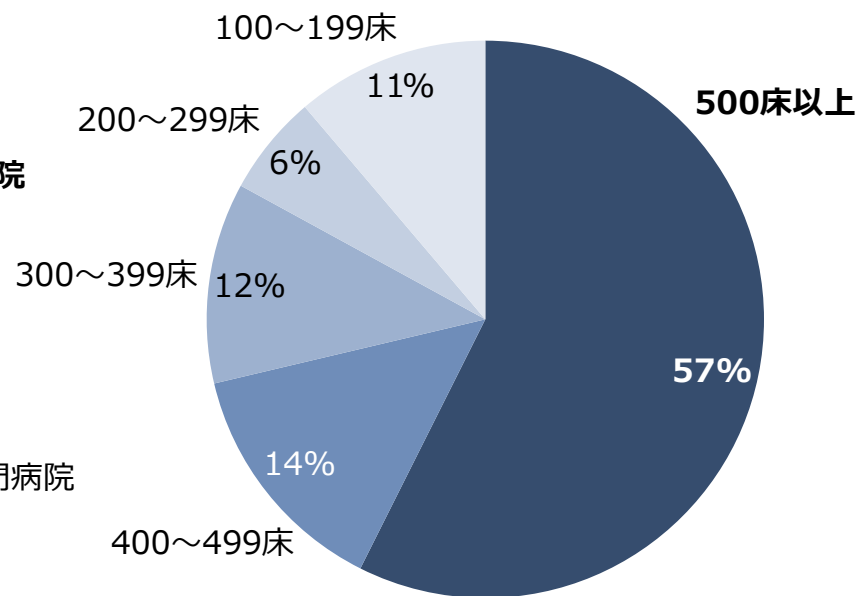
勤務施設は大学病院が最も多く、次いで国・公立病院だった。  
 病床数は500床以上が約6割を占めるなど、大病院の勤務医が多かった。  
 勤務先エリアは関東が最も多く、次いで近畿、中部の順だった。

(n=223)

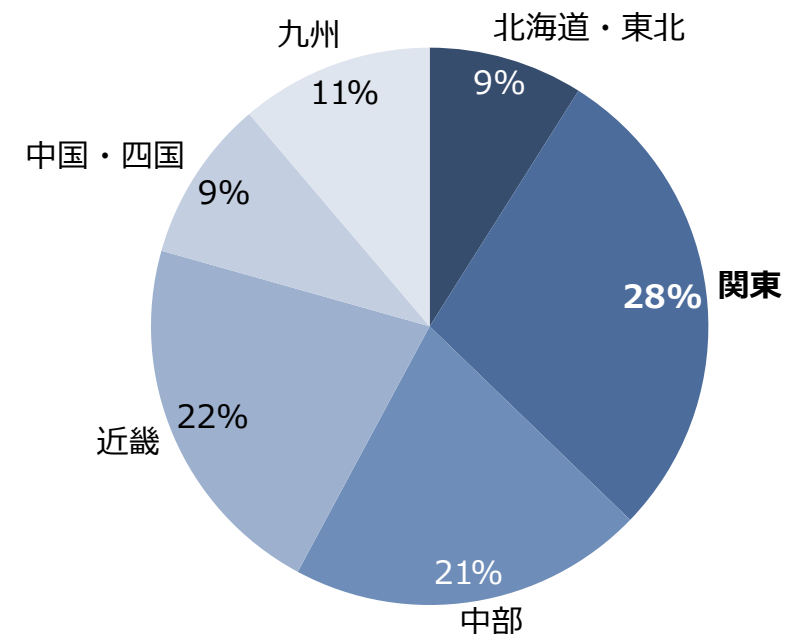
勤務施設



病床数



勤務先施設のエリア



F1.先生の主たる勤務施設をお知らせください。(SA)

SQ2.先生が主に勤務されている施設の、病床数をお知らせください。(SA)

F2.先生の勤務先施設の所在地を教えてください。(SA)

### 全体

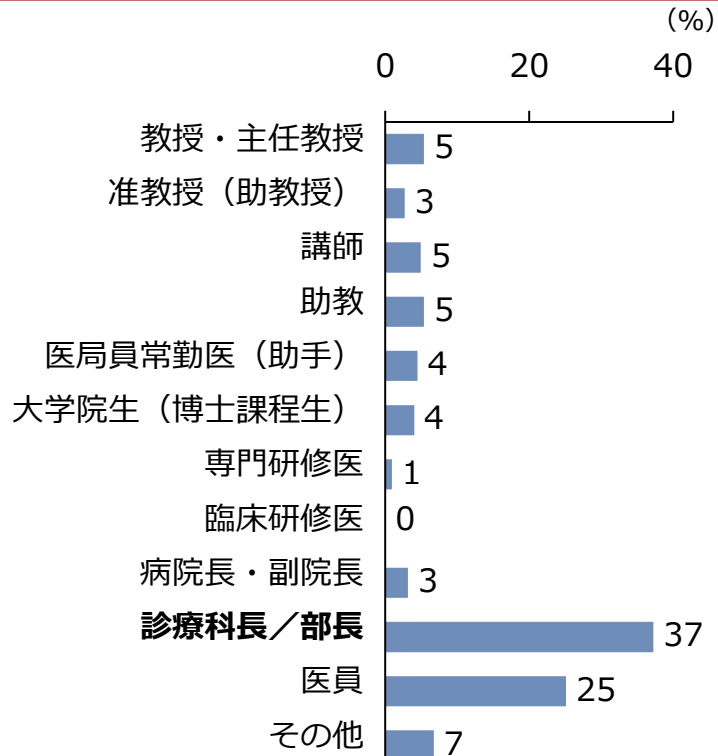
役職は診療科長／部長が最も多く、全体の約4割を占めた。

処方権は、最終決定をする立場の医師が約8割であった。

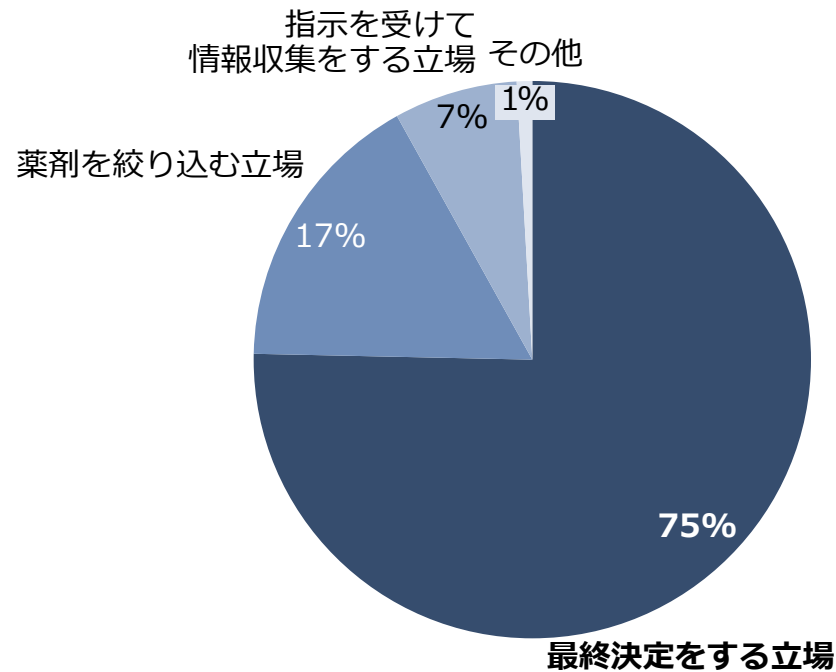
所属学会は、日本血液学会（JSH）が最も多く、次いで日本造血・免疫細胞療法学会（JSHCT／JSTCT）、日本臨床腫瘍学会（JSMO）の順であった。

(n=223)

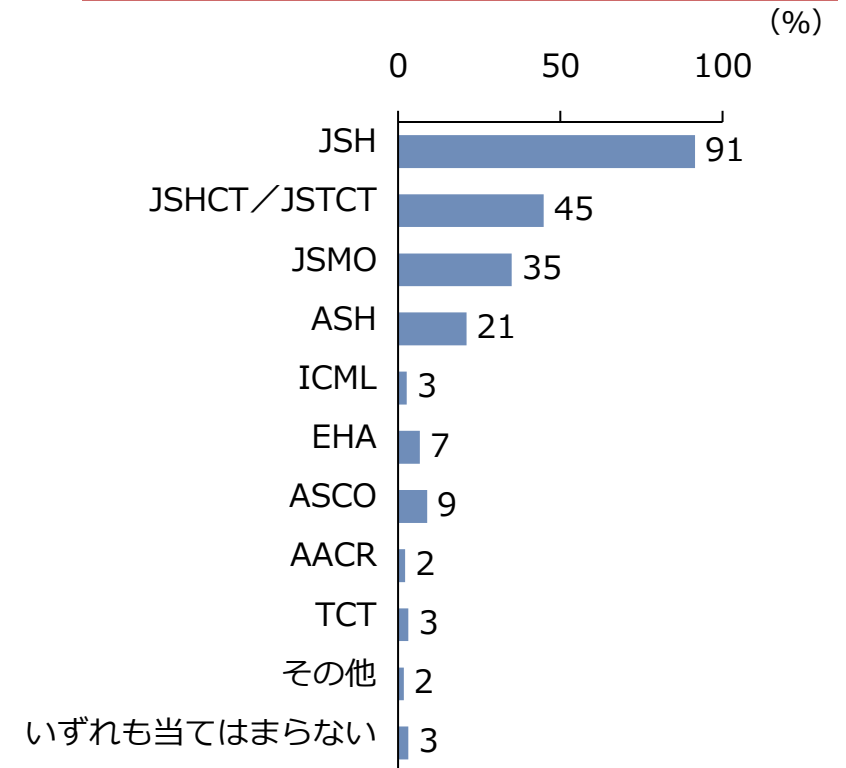
#### 役職



#### 処方権



#### 所属学会



F4.先生の勤務施設での役職を教えてください。（SA）

F5.先生はご自身の患者に対し、処方薬剤を決定するお立場にいらっしゃいますか。（SA）

F6.先生が普段参加される学会を全て教えてください。（MA）

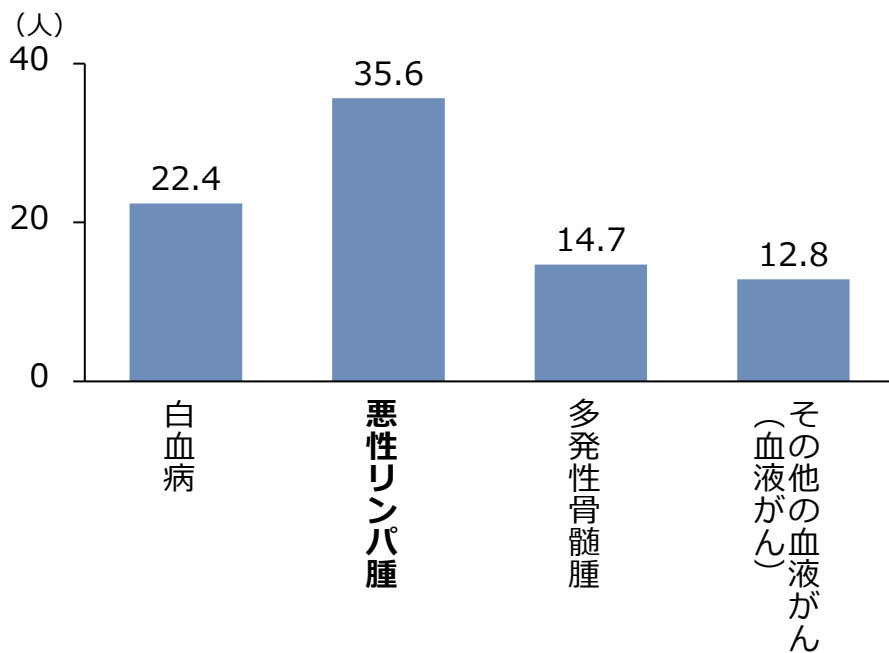


### 全体

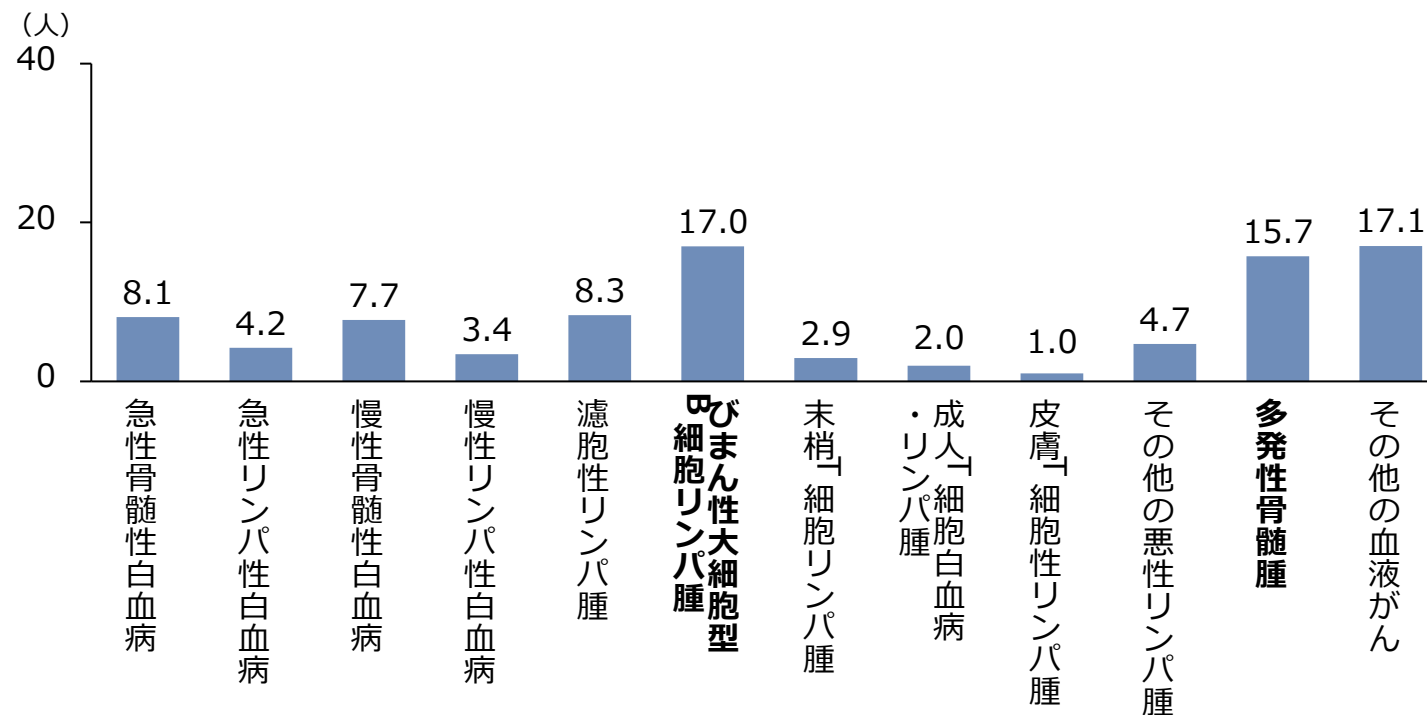
悪性リンパ腫の患者数が最も多く、直近1年間の患者数は平均35.6人であった。疾患別では、DLBCLが最も多く、次いでMMであった。

(n=223)

直近1年間の患者数（平均値）



直近1年間の患者数：疾患別（平均値）



SQ4. 【直近1年以内】に先生ご自身が診療した、血液がんのおおよその患者数をカルテベースで教えてください。（数値）

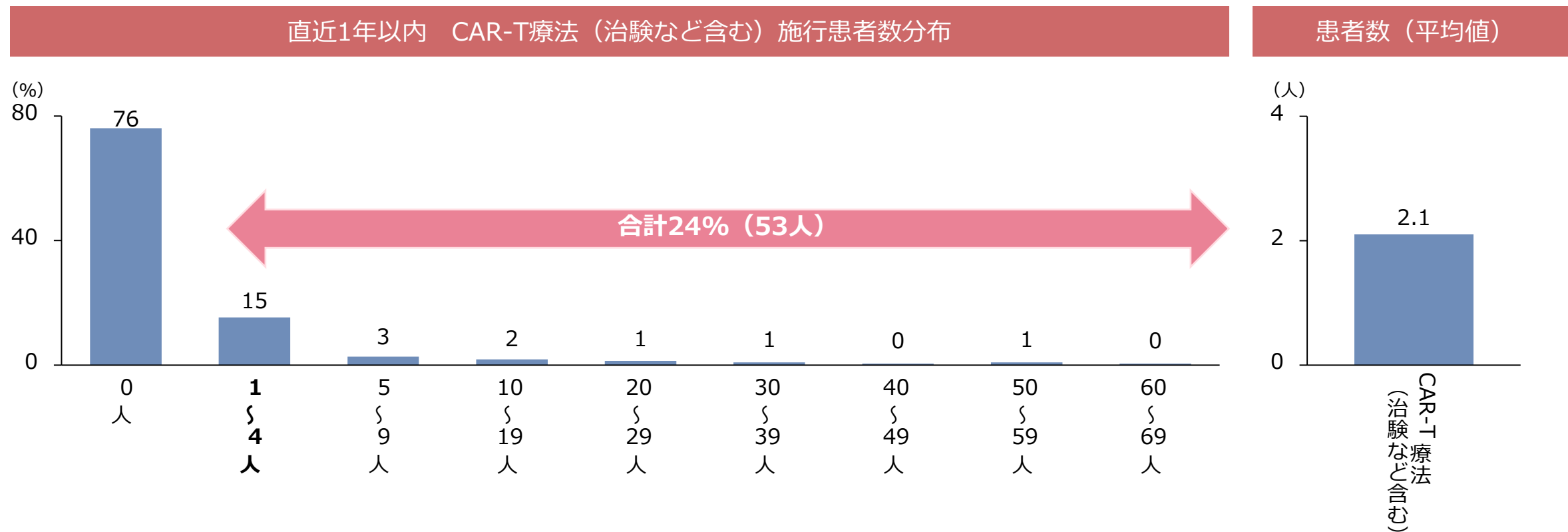
Q1. 【直近1年以内】に先生ご自身が診療した、以下疾患の患者数をカルテベースでお教えてください。（数値）

Q2. 【直近1年以内】に先生ご自身がCAR-T治療（治験等含め）を施行した患者数を教えてください。（数値）

## 全体

直近1年以内のCAR-T療法施行経験率は24%で、1~4人程度に施行した割合が最も多かった。  
直近1年以内にCAR-T療法を施行した患者数の平均は、2.1人であった。

(n=223)



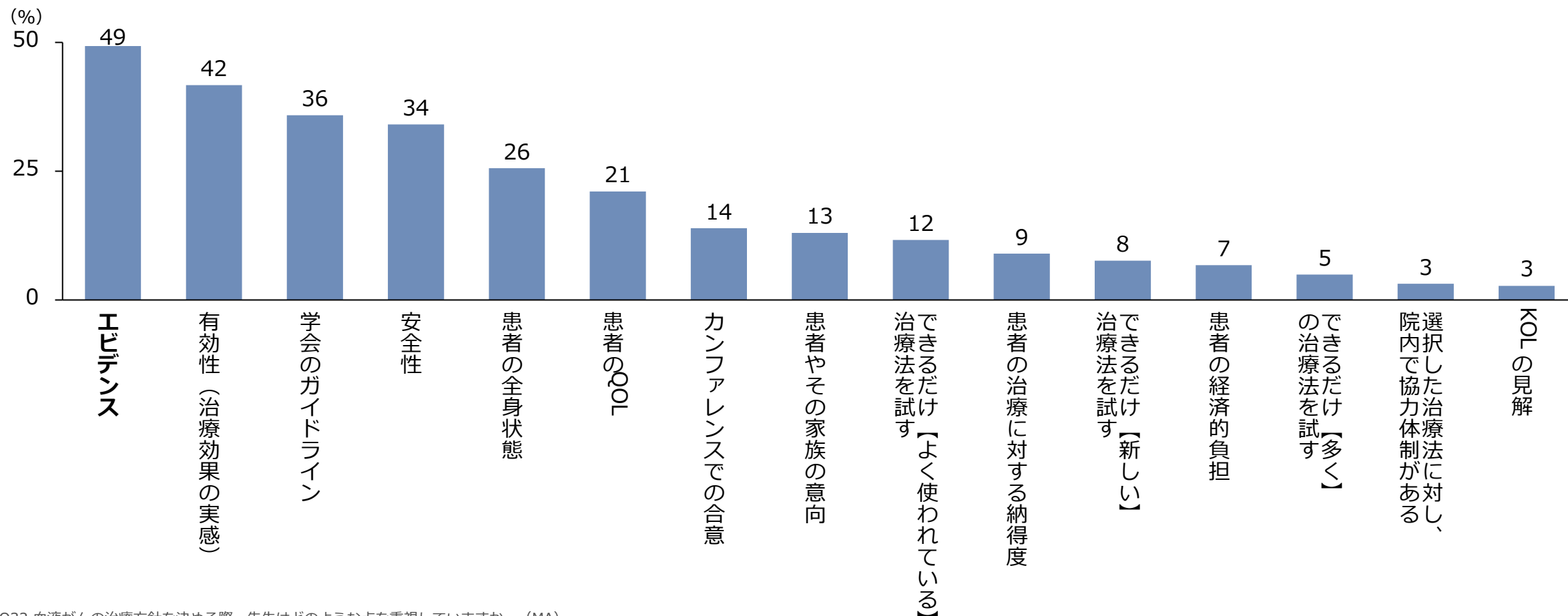
Q2. 【直近1年以内】に先生ご自身がCAR-T治療（治験等含め）を施行した患者数を教えてください。（数値）

# 回答者属性(治療における重視点)

## 全体

エビデンスを重視する医師が最も多く、全体の約5割を占めた。  
次いで、有効性、学会のガイドライン、安全性という順であった。

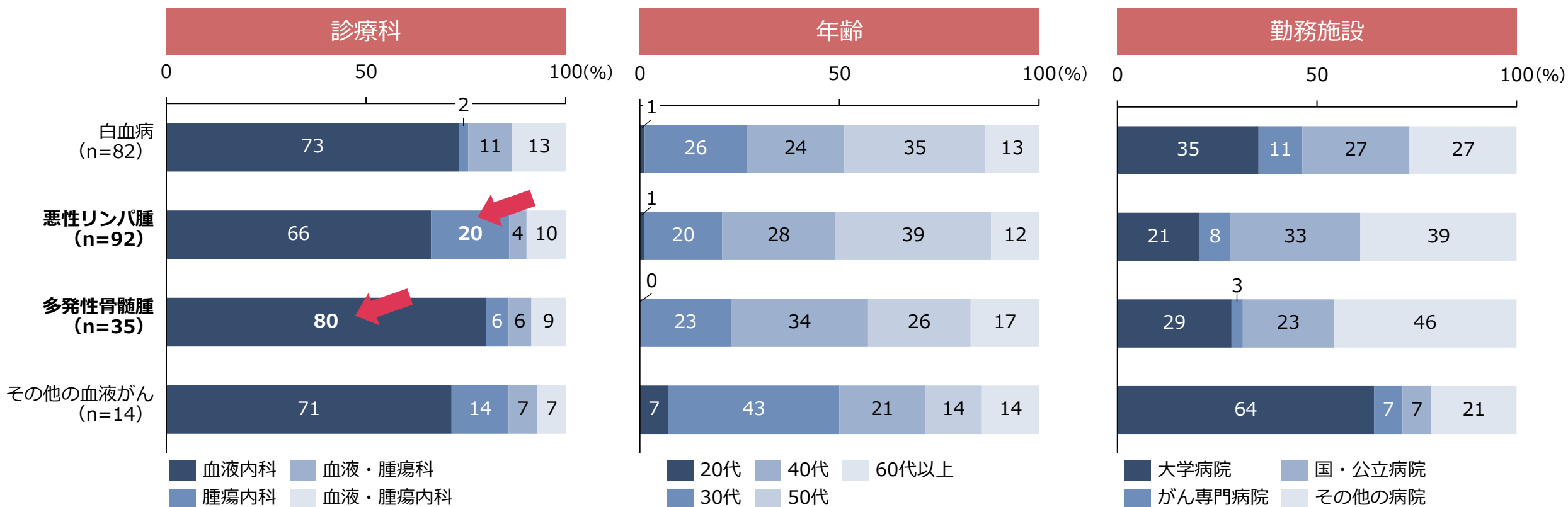
(n=223)



Q32.血液がんの治療方針を決める際、先生はどのような点を重視していますか。(MA)

### 専門別

悪性リンパ腫の専門医は、腫瘍内科医が他より若干多く約2割であった。  
多発性骨髄腫の専門医は血液内科医が多く、約8割を占め、  
年齢に専門別で大きな違いは見られなかった。

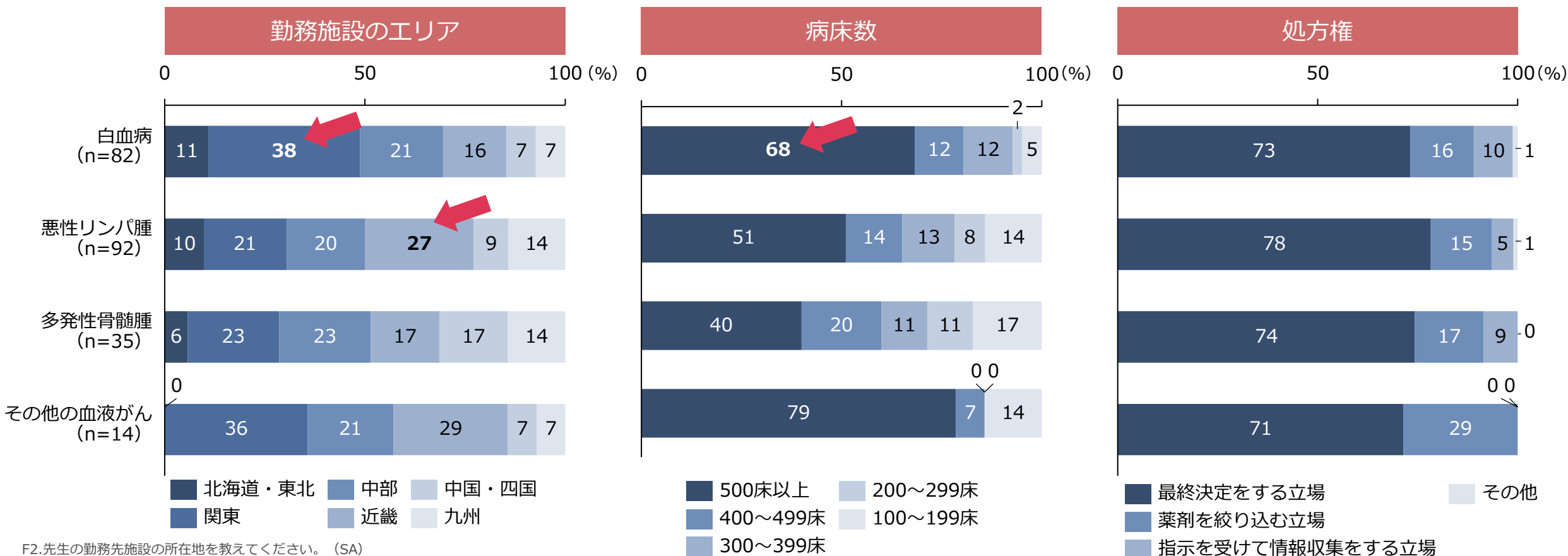


SQ1.先生の主たる診療科をお知らせください。(SA)  
F3.先生のご年齢(年代)を教えてください。(SA)  
F1.先生の主たる勤務施設をお知らせください。(SA)

注: n<30はサンプル数僅少のため、参考

### 専門別

白血病の専門医は関東の割合が多く、病床数も500床以上と大病院の勤務医が多かった。  
悪性リンパ腫の専門医は、他と比べ近畿エリアの割合が若干多かった。



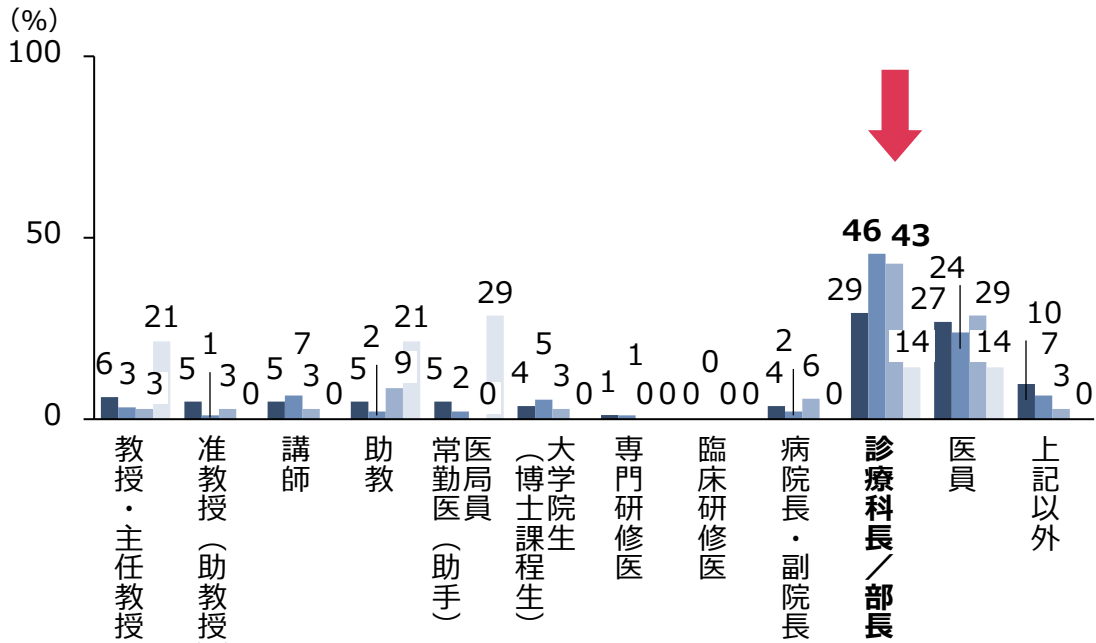
F2.先生の勤務先施設の所在地を教えてください。(SA)  
 SQ2.先生が主に勤務されている施設の、病床数をお知らせください。(SA)  
 F5.先生はご自身の患者に対し、処方薬剤を決定するお立場にいらっしゃいますか。(SA)

注：n<30はサンプル数僅少のため、参考

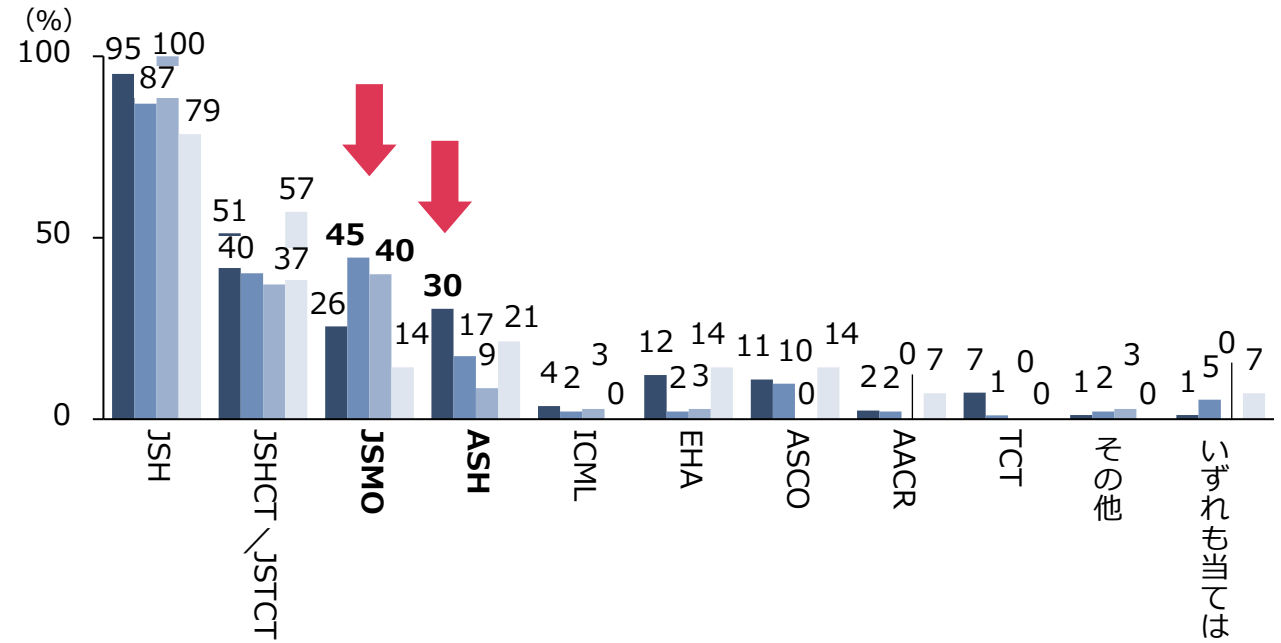
### 専門別

いずれの専門医も診療科長／部長や医員が多いが、特に悪性リンパ腫や多発性骨髄腫の専門医で多く、4割超を占めた。  
 所属学会はいずれの専門医もJSH、JSHCT／JSTCTが多く、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫の専門医はJSMO、白血病の専門医は米国血液学会（ASH）の割合が多かった。

#### 役職



#### 所属学会



■ 白血病 (n=82) ■ 悪性リンパ腫 (n=92) ■ 多発性骨髄腫 (n=35) ■ その他の血液がん (n=14)

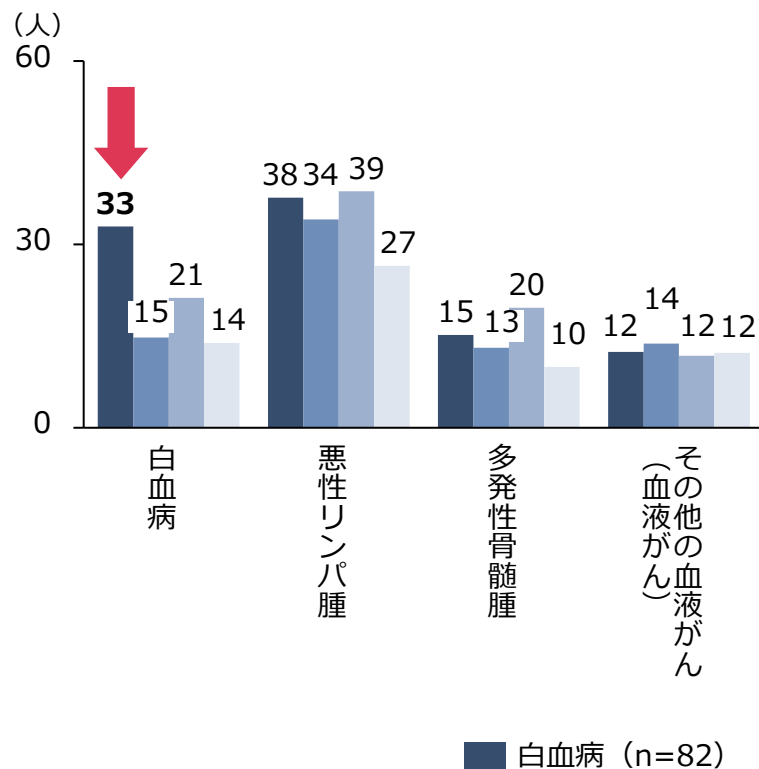
F4.先生の勤務施設での役職を教えてください。(SA)  
 F6.先生が普段参加される学会を全て教えてください。(MA)

注：n<30はサンプル数僅少のため、参考

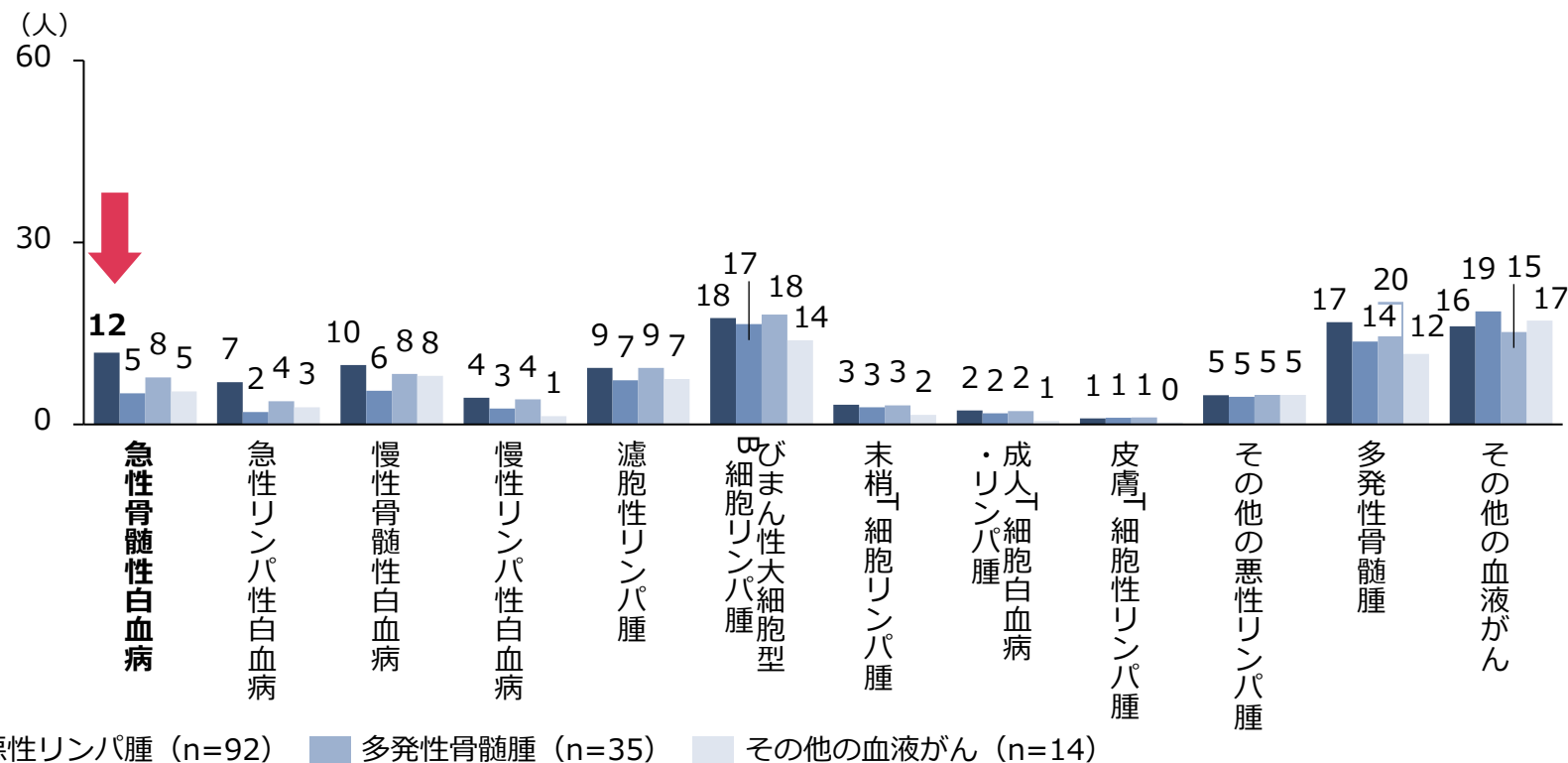
### 専門別

白血病の専門医は、白血病、特にAMLの患者が他の専門医よりも多い傾向が見られた。その他の疾患の患者数は、専門領域別に大きな違いは見られなかった。

直近1年間の患者数（平均値）



直近1年間の患者数：疾患別（平均値）



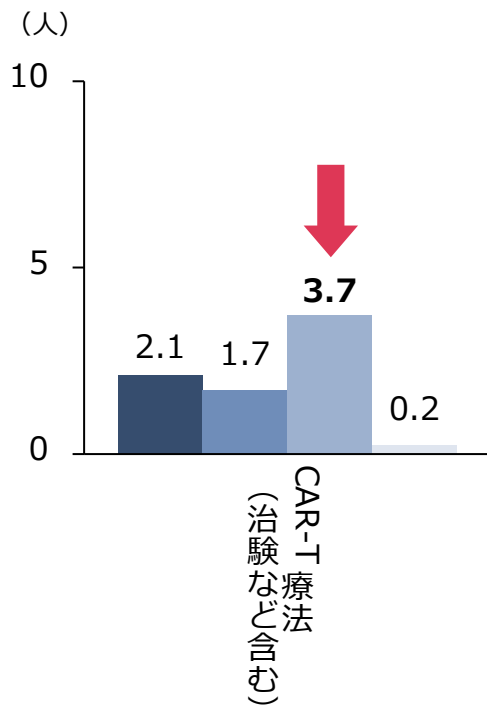
SQ4. 【直近1年以内】に先生ご自身が診療した、血液がんのおおよその患者数をカルテベースで教えてください。（数値）  
 Q1. 【直近1年以内】に先生ご自身が診療した、以下疾患の患者数をカルテベースでお教えてください。（数値）

注：n<30はサンプル数僅少のため、参考

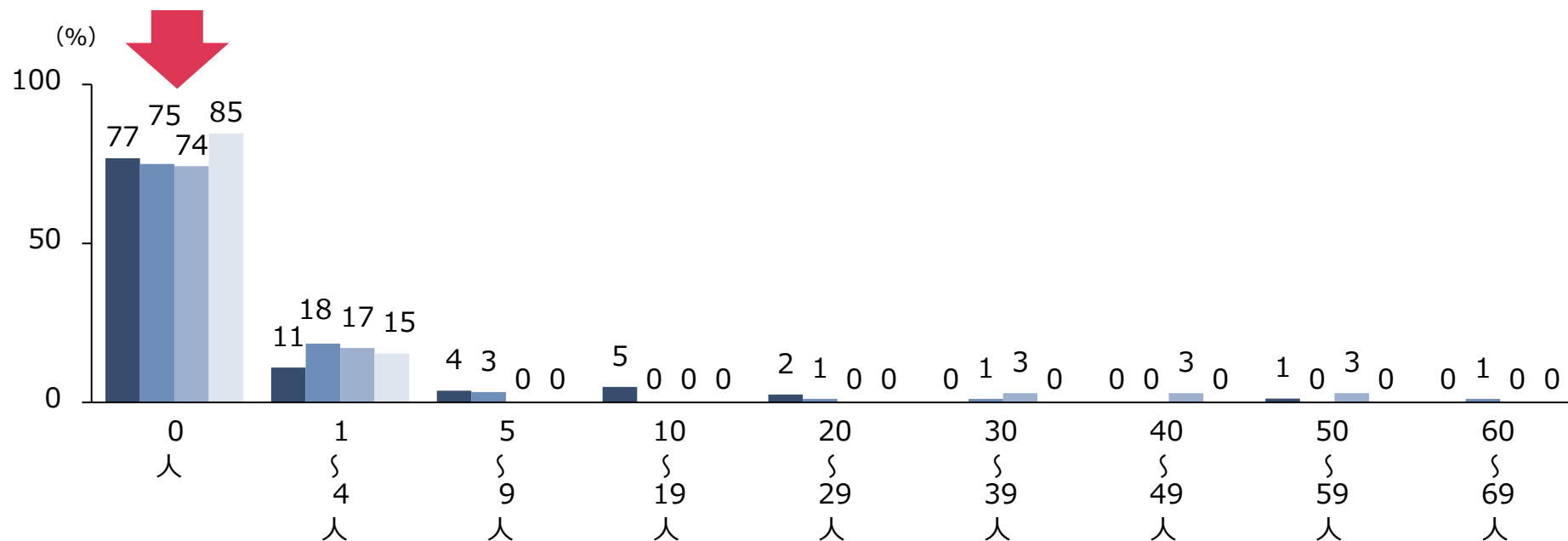
## 専門別

直近1年以内のCAR-T療法施行患者数は多発性骨髄腫の専門医で最も多く、3.7人であった。一方、いずれの専門医も7~8割程度が直近1年以内にCAR-T療法を施行しておらず、大きな違いは見られなかった。

患者数 (平均値)



直近1年以内 CAR-T療法 (治験など含む) 施行患者数分布



■ 白血病 (n=82) ■ 悪性リンパ腫 (n=92) ■ 多発性骨髄腫 (n=35) ■ その他の血液がん (n=13)

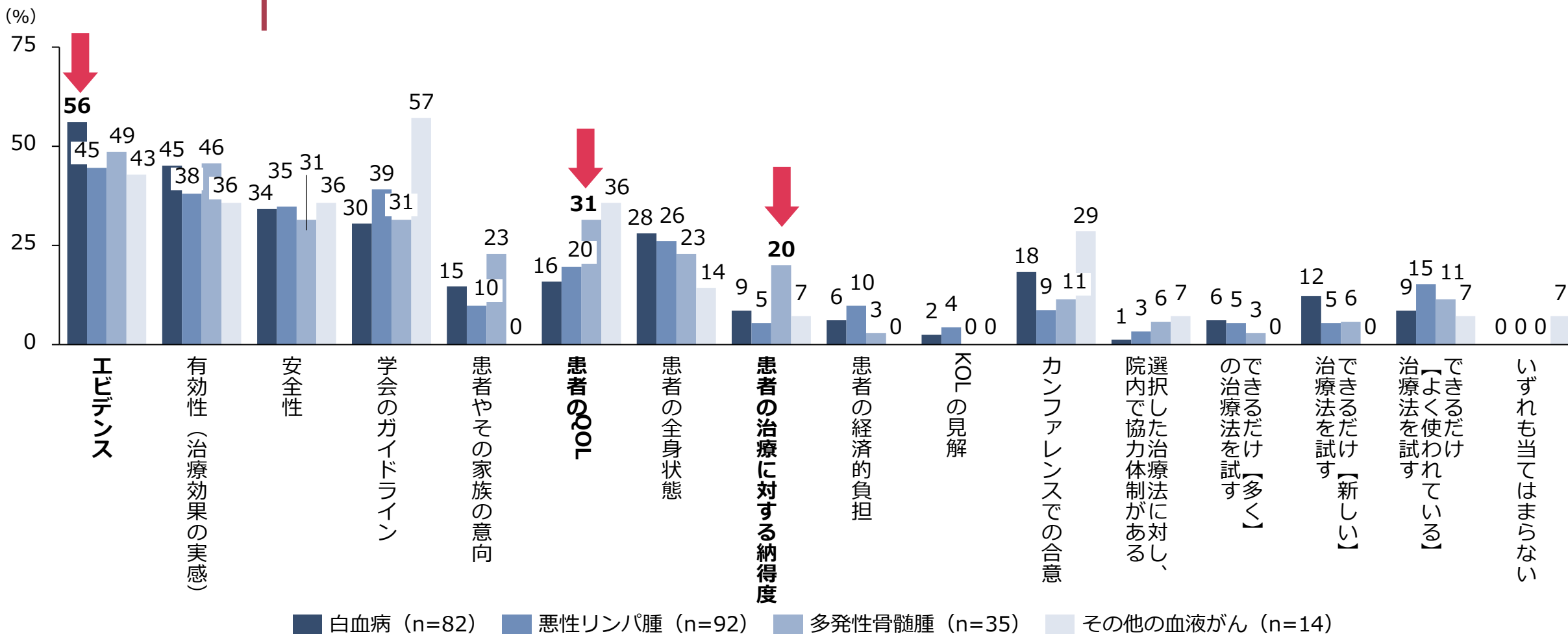
Q2. 【直近1年以内】に先生ご自身がCAR-T治療 (治験等含め) を施行した患者数を教えてください。(数値)

注: n<30はサンプル数僅少のため、参考



## 専門別

白血病の専門医はエビデンスを重視する割合が高い一方、多発性骨髄腫の専門医ではQOLや治療に対する納得度など、患者に関する項目の重視度が高かった。

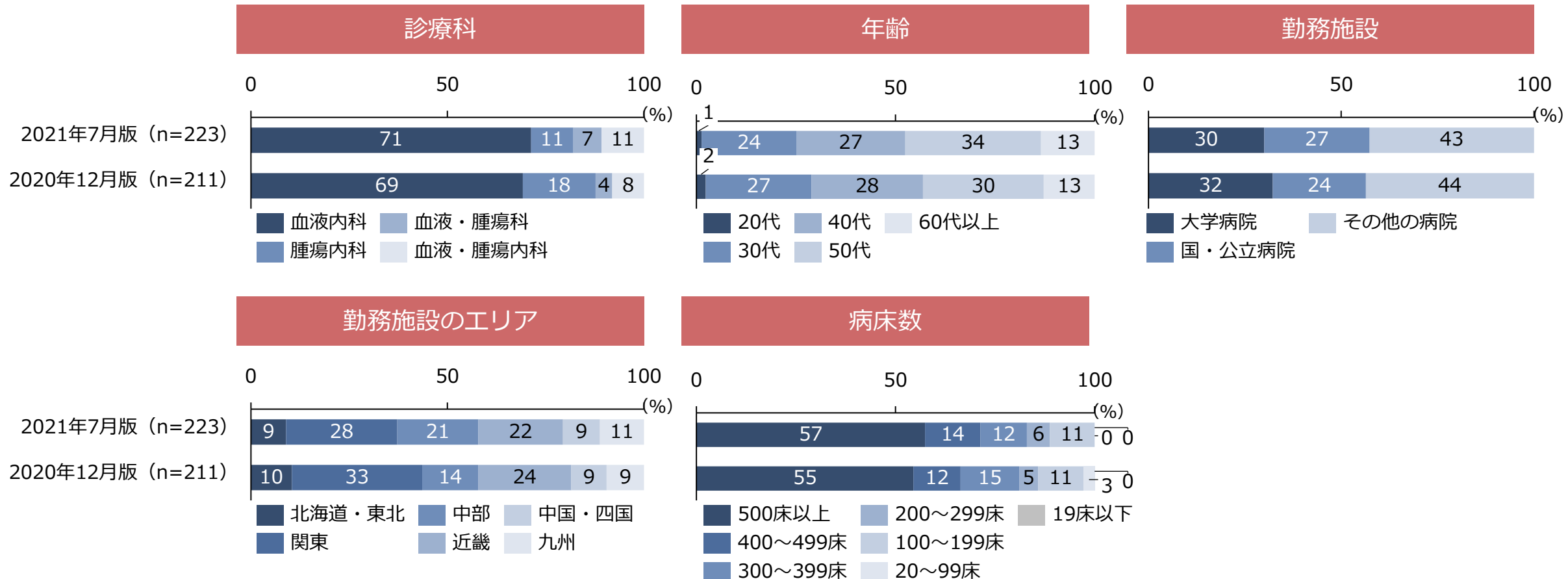


Q32.血液がんの治療方針を決める際、先生はどのような点を重視していますか。(MA)

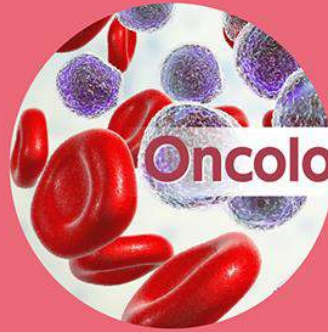
注: n<30はサンプル数僅少のため、参考

### 時系列比較

今回は勤務先の病床数について100床以上の病院勤務医に条件を変更したが、基本的な属性に大きな変化は見られなかった。



SQ1.先生の主たる診療科をお知らせください。(SA) / F3.先生のご年齢(年代)を教えてください。(SA) / F1.先生の主たる勤務施設をお知らせください。(SA) / F2.先生の勤務先施設の所在地を教えてください。(SA) / SQ2.先生が主に勤務されている施設の、病床数を教えてください。(SA)



## Oncologist Fact Report

2021年 7月版



# Medical Tribune

**本レポートのお問い合わせ先：**

株式会社メディカルトリビューン 調査部

[research@medical-tribune.co.jp](mailto:research@medical-tribune.co.jp)

03-6841-4545

**CONFIDENTIAL**

本資料は、貴社社内関係者のみが使用するものとし、  
株式会社メディカルトリビューンの事前の書面による承諾を得ずに、  
本資料または一部を回覧・引用・複製、貴社外部への配布を禁じます。